

# 12月市議会報告

# 暮らしの要求実現へ全力

2006. 12. 5~12. 22

12月定例会で日本共産党市議団(小菅六雄・野並享子市議)は、一般質問で次の要求実現を求めました。

## 父母・子どもの願い。野洲養護学校の寄宿舎存続を

平成20年4月に野洲養護学校が開校します。しかし、県教育委員会は、寄宿舎の利用を制限することを明らかにしています。寄宿舎は、生活の面はもちろん、教育的観点、卒業後の社会自立をめざす上でも、さらには、父母の負担軽減という点でも大きな役割を果たしています。小菅市議は、「市として、県に存続を申し入れるべき」と求めました。しかし、教育委員会の答弁は、「考えていない」と極めて冷たい答弁に終始しました。日本共産党は引き続き、存続を求めます。

## 新幹線栗東新駅の野洲市負担はやめるべき

栗東市長選は、推進派が当選したが、6割は「凍結・中止」の審判が。また、大津地裁の、起債違法の判決、県の「再検証」結果など見ても、民意は「無駄な税金投入はやめよ」です。小菅市議は、「市長が来年度も、野洲市負担分2400万円を出すというが、やめるべき」と求めました。しかし、市長は「協定書に則り支払うため予算計上せざるを得ない」と、市民の意思からかけ離れた答弁です。

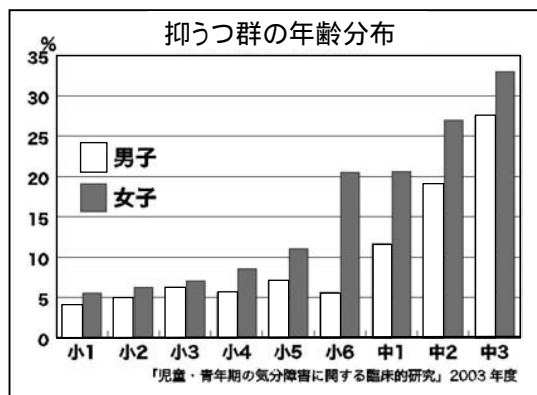
その他に、野洲市まちづくり条例、同和行政、循環バス改善などの質問を行いました。

## 小菅六雄 議員



## 評価制度・競争主義が「いじめ」に拍車をかけている

教師、学校、教育委員会の評価制度により、悪い報告を隠す状況の中、子どもの視点に立った教育ができていない。更に中高一貫教育などにより、受験勉強が小学生まで下がっている。「できる子」「できない子」にふるいわけする競争主義と序列主義によりストレスが増大し、うつ傾向にある子どもは、小中学校で平均13%などの調査結果もある。野並市議は「評価制度や競争主義をやめるべき」と求めました。教育長は「教師の資質向上のため評価は必要。競争主義は助長していない」とすべてを否定しました。



## 学童保育・・・希望者全員が入所できるように

来年度、中主・野洲・祇王学童保育所などでは、待機児童が出るため、分離などにより全員の入所の手立てを求めました。当局は「夏休みのみ希望される方は、『季節学童』を行う。通常保育のオーバーは、分割保育。少しの精査は必要」と答弁しました。

その他に、地下水保全や学校図書館に専任司書の配置などを求めました。

## 野並享子 議員



## 75歳以上の高齢者に新たな大負担の医療制度

12月議会に、75歳以上高齢者の医療保険を別立てにするための議案が提出されました。新たな保険機関が設立され、スタートは平成19年4月となります。保険料は全国平均で約6200円となります。とりわけ、これまで扶養となっていた高齢者に保険料が徴収されます。野洲市の場

合、75歳以上の高齢者は4600人ですが、その内、扶養されている高齢者は925人で、これらの人は、わずかな年金から、高額な保険料を負担しなければなりません。この議案は、日本共産党市議団は反対、豊政会・公明党、ネットワーク野洲の賛成で決まりました。

12月定例市議会の内容は、引き続き、「やす民報」でお知らせします

## やす民報

日本共産党野洲市委員会  
2006年12月24日 109

暮らしのご相談、ご要望  
お寄せください

市会議員 小菅六雄 (電話) 589-4971 (FAX) 589-6184  
(メール) shgdy177@ybb.ne.jp (HP) http://www.yasusigi.net/~kosuga/  
市会議員 野並享子 (電話) 587-0985 (FAX) 586-1102  
(メール) no73kyo ko@yahoo.co.jp (HP) http://www.yasusigi.net/~nonami/

12月議会に提案されましたが  
日本共産党市議団のみ反対  
豊政会やネットワーク野洲が賛成